

# 前立腺がんは恐くない病氣 早期発見・治療なら根治も

## 前立腺がん~恐いがん? 恐くないがん?

要約し前立腺がんの治療や予防法を考えます。

一般的に「がんは、恐い病氣」という印象だと思います。前立腺は女性には無く男性にしかない臓器で、お腹の一番下にある恥骨の裏側、膀胱の下でクルミのような形をしたのが前立腺です。周りに直腸



講演する橋本先生

前立腺がんは欧米に多く、日本での罹患率はその10〜20分の一とされてきたが近年、わが国でも食生活の欧米化や超高齢化社会などにより増加し続けています。12月15日(金)に総合南東北病院で開かれた12月医学健康講座で同病院の橋本樹医師(泌尿器科)が「前立腺がん、恐いがん? 恐くないがん?」と題して講演した内容を要約し前立腺がんの治療や予防法を考えます。

や肛門があり前立腺の真ん中を尿道が通っています。リンゴやミカンのなど果物の芯が尿道でその周りを囲んでいるのが前立腺と考えるとください。前立腺は精巣と繋がっています。前立腺が肥大するといろんな症状が起き、煩わしい病気になるので「いらぬ病氣」という気もしますが、前立腺は実は大事な生殖器です。子孫を残すため精子は精巣でつくられ、外に出て子宮の中で卵子と受精しますが、精子自体は、そのままでは活動能力がありません。精子が活発に活動できるように前立腺が前立腺液を分泌し、卵子にたどりつけるよう精子を守る大事な役割を果たしています。

もう一つは尿を漏れないようにする役目です。前立腺の働きには男性ホルモンが重要なガソリンみたいなものです。男性ホルモンがないと前立腺の働きはパツとしなくなり、だんだん小さくなります。女性には残念ながら閉経のシステムがあり、一定年齢になると女性ホルモンが出なくなりますが、幸いにして男性ホルモンはほぼ一生出続けます。そのため前立腺は煩わしい病氣が出てくるといわけです。一番頻度が高いのが前立腺肥大症。簡単にいえば年寄りの病氣です。とはいえ年寄りばかりではなく50歳を過ぎると加齢とともに前立腺の中に腺腫が形成され、特に尿道の周りが大きくなつて尿道を圧迫し様々な症状が出てきます。つまり前立腺肥大症は「男性の宿命」とも言えます。

## 50歳過ぎたらPSA検査 男の宿命も適切治療で快適生活

中高年男性の排尿症状は、例えばおしっこが近い頻尿。日中近かったり夜間多い人もいますが、一番多いのが夜間頻尿で1回が2回、2回が3回と回数が増えだんだん増えます。それから急にトイレに行きたくなる、間に合わない、残尿感があつてすっきりしない、尿の勢いが弱いきまないと出ない、途中で止まってしまうなど様々ですが、ほとんど前立腺肥大症の症状です。こうした症状は煩わしいけれど命には係わりません。基本的には内服治療が主で交感神経遮断薬のハルナール、ユリーフ、フリバスなど。飲んで効果がパツとしない場合は血管拡張薬のザルテア、抗男性ホルモン薬のアボルブ、そのほか排尿症状治療薬などを組み合わせて治療します。薬が効かない場合もあり、尿道が詰まったり、尿道が塞がるほどに大きくなった場合は手術するしかありません。

手術には尿道から内視鏡を挿入して行う経尿道的前立腺切除術(TURP)や当院でよくやっているレーザー前立腺切除術などがあります。レーザーによる切除術は、腹を切らずにミカンに例えると皮の中の実だけにレーザーを照射し、肥大した前立腺組織をくりぬきます。

昔は前立腺が大き過ぎると開腹して手術した時代もあつたが、時間がかかり出血のリスクが高かつた。レーザーの導入により大きさに関係なくほぼ安全に手術が可能になりました。総じて手術は効果あるがリスクも高い。薬物治療は薬種類が多く効果はマチマチだが、比較的效果も高く、6〜7割が満足して薬を続けているのが現状。それでも効かない時はレーザー治療が良い、といえます。

前立腺肥大症はミカンの実、内側から大きくなるが「前立腺がん」はミカンの皮の方、外側にできます。肥大症から

がんになるということは絶対ありません。肥大症と前立腺がんは全く別の病氣。前立腺がんは①圧倒的に65歳以上男性に多い②進行が比較的遅くゆっくり③早期であれば根治が可能④内分泌療法が有効。薬の種類が多く比較的副作用が少なく長生きできる⑤高齢化と早期発見が可能になり増加傾向などが特徴です。

前立腺がんにかつた人は、天皇陛下はじめ多くの有名人がいます。では前立腺がんは「恐いのか、恐くないのか」。

前立腺がんの5年生存率は97・5%で全がんの中で断然トップ。脾臓の7・9%の10倍以上予後がいいです。治療法が確立している、良い薬が多いこともあります。10年生きる確率も78%と皮膚がんに次いで2番目。この数字から「恐くない病氣」といえることが理解できると思います。

まとめると前立腺肥大症は「男の宿命」だが、自分に合った治療法を受ければ尿に関して煩わしくない快適な日常生活が送れます。ただ50歳過ぎたら年に1回は腫瘍マーカーを検出する血液検査のPSA(前立腺特異抗原)検査を受けてください。PSAは「早期発見の鍵」。前立腺がんは恐くありません。適切治療で元気に長生きしてください。